

活動期間メーター



活動開始

1年

現在

活動終了(2年)

海外協力隊とは何なのか？

派遣から一年、JICA海外協力隊として過ごす時間はいろいろなことを考え、悩み、そして喜びを感じます。「JICA海外協力隊とは何なのか・・・」派遣中の現在も常に思うことです。葛藤する毎日の中で、一つの活動事例を通して見えたものについて今回はお話したいと思います。

きっかけはODA（政府開発援助）



私の活動先であるスラタニー県のプンピン郡。そこにあるバーンサイガム学校に、日本のODA、草の根・人間の安全保障無償資金協力によって水害避難センターが建設されました。また、その建設記念式典へ在タイ日本大使館公使と共に出席したことがきっかけとなり、この学校と私の繋がりが生まれました。



1. 人や地域を「つなぐ」役割



式典の出席を契機に、所属する病院のスタッフと共に学校に訪問したり、学校から招かれたりと、病院と学校間の行き来が増えました。これは、私が日本人の一代表として式典に参加したことで生まれたつながりであり、ボランティアの役目を一つはたしていると実感する活動でした。



栄養士とサンドイッチ作り



栄養素の数字でビンゴ

現地の人に向けて何か技術を与えたり物を作り上げることが、国際協力に携わるボランティアの重要な活動かもしれませんが、形には見えない人や地域を「つなぐ」こともまた、JICA海外協力隊員の意義ではないかと思っています。



3校対抗運動会



来賓としてメダル授与

2. 一人ではできないことも二人ならできる



2月、学校に他県で活動する隊員を迎えて、日本の文化を紹介するために「けん玉イベント」を行いました。けん玉有段者の隊員はけん玉で生徒を魅了し、また私も、けん玉に合わせてギター伴奏にて日本の歌を紹介しました。私は学校との連絡調整や事前準備、迎えた隊員は当日のイベントのMCからプロデュースと、このイベントはお互いにとって一人では成立しなかったものであり、一人ではできないことでも隊員同士の力を合わせれば様々な可能性が広がることを実感した活動でした。

海外協力隊の成果は決して自分一人きりで出すものではなくて、職種に関わらず同国や異国の隊員と連携しながらの活動することで、3倍、4倍の成果が生まれることを感じました。



けん玉のやり方を説明

けん玉に触れる生徒たち

先生達もけん玉初体験

けん玉とギターのセッション

協力してくれた皆さん

けん玉オリンピック開催

タイの織物「ターレーオ」の作り方を教わる

季節が過ぎるのは早いもので、タイ生活ももう折り返し地点を過ぎました。最近、同国の隊員や日本にいる友人が私の住むスラータニー県を訪問してくれることで、任地のおすすめ料理やおすすめスポットなども紹介できるようになり、すっかりスラータニー県民です！ちなみに海産物が美味しい街です！！

現地のタイ料理シリーズ 1皿目



トムカーガイ